

児童養護施設での生活経験のある者からみた「よい職員」とは — 入所児童と退所児童へのアンケート調査の結果から —

The good staff are those who learn from those who have a life experience in a children's home
— The result of the questionnaire given to the children —

藤 田 哲 也

Tetsuya FUJITA

1. 研究の背景と目的

厚生労働省の実態調査（厚生労働省：2011）によると、現在全国の児童養護施設は575箇所、施設で生活する児童は34,569人であり、虐待が理由で入所している児童は53.4%に上る。また、全国の児童相談所に寄せられる虐待相談件数も、児童の虐待防止に関する法律施行前の1999年度に比べ、2009年度においては3.8倍に増加している。また、児童養護施設に入所している児童の23.4%が何らかの障害を持って生活している（2010年現在）。東京都社会福祉協議会児童部会（2005）の「被虐待児に対する関わり方調査」では、被虐待児のうちで「関わり方が難しい児童」の割合は44.6%であり、それは入所児童の25.2%を占めていた。児童養護施設では、精神的問題をかかえた児童や軽度発達障害児童の増加により、日常的な生活援助の充実に加え、治療機関や医師との関わりがますます必要となっている。そして施設への入所理由が多様化していくにつれ、施設で働く職員も高度な専門性が求められている。谷口（2008）は現在児童養護施設の援助実践に携わっている援助者（職員）に対する研修やスーパービジョン等の必要性を述べている。

その他、職員の資質に関する調査は、福祉労働研究会（2005）、鎌田・駒米（2008）、高橋（2004）、伊藤（2007）らの調査があるが、児童養護施設の職員に求められる専門性や資質については職員へのアンケート調査や実態調査から分析しているものが多く、子どもの視点からの分析はなされていない。

市川（2003）は保護・措置の対象とされている子どもの意見表明や子どもの声は、未だに子ども扱いされてきており、福祉サービスの利用者やサービスの評価者という視点からは真剣に受け止められてこなかった、と述べる。児童虐待問題が深刻化していくなかで、子どもの権利擁護のための施策（第三者評価、苦情解決制度、第三者機関の介入、職員研修のあり方など）の的確なカギとなるのは、施設生活経験者や被虐待経験の当事者である彼らの声やメッセージであり、そこから学ぶ姿勢が重要である、と児童養護施設生活経験者（当事者）の意見を聞くことの重要性を説いている。

当事者の意見を聞くことについて、高橋ら（2009）は鳥取県内5児童養護施設の小学生・中学生・高校生132名を対象に、職員観と生活意識を尋ねる目的で1対1の半構造化面接調

査を行った。職員に対しては、して欲しいこと（要望）として、共に活動を行う中で、「一緒に遊んでほしい」「勉強を教えて欲しい」「いけないことは叱って欲しい」「将来のことを一緒に考えて欲しい」など、内面的な思いへの共感的な支援を期待していると述べている。その他、伊藤（2010）も当事者の意見から児童養護施設のあり方について見直すことは非常に重要であると述べ、この点をふまえた量的調査が今後の課題であるとしている。

一方、児童養護施設を退所した児童に関しては、長谷川（2001）、東京都社会福祉協議会児童部会調査研究部（2004）、全国社会福祉協議会（2009）が調査を行っている。全国社会福祉協議会の調査では、「退所した人へのインタビューの意義は、入所時におけるよりも、時を経て客観的に自らの生活を振り返り、施設生活を自分なりに評価できること、個別の語りの中にも普遍化できる課題が多く含まれ、学ぶべき内容、考え、取り組んでいくべき事項が多く含まれている」と生活経験者の語りを聴くことの重要性を述べている。

これらの先行研究からは、当事者の意見をもとに児童養護施設の在り方を見直すことは非常に重要であるという点では一致しているが、現在施設で生活している児童だけでなく、退所児童の意見も取り入れながら児童養護のあり方を問う分析は十分になされていなかった。そこで本研究では、現在施設で生活している児童と、退所児童の2群を対象にアンケート調査を行い、彼らの職員に対する思いを確認した。本稿ではその中の問い『職員へ望むこと』『良い職員とは？』への回答（自由記述）について分析し、子どもは職員に何を望んでいるのかと、子どもの目からみた「良い職員」の具体像について、施設入所児童と退所児童の両方の子どもの視点から明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

調査対象はG県内の児童養護施設の入所児童（中学生以上。以下、入所児童）143名と、児童養護施設の退所児童（以下、退所児童）94名である。G県全体の10児童養護施設のうち、協力の得られた8施設に調査を依頼し、調査票と返送用封筒は調査協力を得た施設職員を通じて対象となる子ども達に配布してもらい、郵送による返送を依頼した。なお、入所児童はアンケート調査の目的を理解し、調査の同意を得られる者として、中学生以上を対象とした。

退所児童に関しては、G県内5施設を退所した者50名と、児童養護施設生活経験者で組織する4つの当事者団体を通じて依頼し、同意を得られた73名を調査の対象とした。配布方法は、依頼文を付けたアンケートを返信封筒とともに直接郵送、または施設に来園した際に直接記入依頼をした。回答は直接、筆者に手渡し、あるいは郵送してもらった。

調査項目は、①基本属性、②職員に望むこと、③よい職員とは？である。期間は、2010年1月末から2010年5月末までであった。

3. 倫理的配慮

日本福祉大学大学院倫理ガイドラインに基づき、入所児童に対しては、施設長の許可を得たうえで研究の概要と倫理的配慮等について記載のある依頼文書を読んでもらい、必要に応じ、施設職員より口頭で説明してもらった。退所児童については依頼文書をアンケートに添付し、読んでももらった。入所児童、退所児童ともに回答の強制はおこなわず、調査票の返信をもって同意が得られたこととした。また、収集したデータについては個人を特定できない形態で分析を行った。

分析方法

基本属性に関しては単純集計をおこなっ

た。また『職員に望むこと』、『よい職員とは?』の自由記述に関しては、内容別にカテゴリ分析をおこなった。

4. 研究結果

回答者の基本属性：

①入所児童

配布枚数は149枚、143名からの回答があった(回収率95.9%)。男性78名、女性65名で、平均在園期間は80ヶ月(6年6ヶ月)(SD80±54.3)であった。(表1)

②退所児童

配布枚数は123枚、94名からの回答があった(回収率76.4%)。男性51名、女性43名、年齢区分は10代が38名(40.4%)、20代が42名(44.8%)、30代が10名(10.6%)無回答が4名(4.3%)であった。退所後の進路については、

進学34名(36.2%)、就職54名(57.4%)無回答が6名(6.4%)であった。平均在園期間は115ヶ月(9年5ヶ月)(SD115±62.6)であった。(表2)

1) 職員に望むこと

自由記述の結果 (表3)(表4)

入所児童の自由記述を分析した結果、意見は主に施設生活の改善、職員自身のこと、子どもへの関わり方の3つのカテゴリに分けられた。施設生活の改善では、ルールや規則を変えて欲しいなど漠然とした意見から、消灯やゲームの時間、携帯電話のことなど具体的な要望があった。約束などを決める時は、職員だけでなく子どもの意見をもっと取り入れて、子ども達を納得いくようにして欲しい、という意見もあった。職員自身のことについて

表1 入所児童基本属性

性別	人数	%	施設での生活期間	人数	%
男性	78	54.5	半年まで	8	5.6
女性	65	45.5	半年～1年	9	6.3
合計	143	100	1年～3年	27	18.9
			3年～5年	19	13.3
			5年～7年	18	12.6
			7年～10年	29	20.3
			10年～13年	19	13.3
			13年以上	13	9.1
			無回答	1	0.7
			合計	143	100

表2 退所児童基本属性

性別	人数	%	年齢	人数	%
男性	51	54.3	10代	38	40.4
女性	43	45.7	20代	42	44.7
合計	94	100	30代	10	10.6
施設での生活期間	人数	%	無回答	4	4.3
半年まで	0	0	合計	94	100
半年～1年	2	2.1	卒園後の進路	人数	%
1年～3年	8	8.5	進学	34	36.2
3年～5年	15	16	就職	54	57.4
5年～7年	11	11.7	無回答	6	6.4
7年～10年	19	20.2	合計	94	100
10年～13年	12	12.8			
13年以上	25	26.6			
無回答	2	2.1			
合計	94	100			

では、言葉や態度の改善（子どもとの接し方や言い方について）話を聞いてほしい（もっと話がしたい。真剣に話を聞いて欲しい）平等な関わり（平等に見て欲しい、差別をなくして欲しい）などがあった。そして、子どもへの関わり方では、気を遣って欲しい、真剣に向き合って欲しいなどの記述があった。その他、あまり関わって欲しくない、人の家庭に深く入り込まないで欲しいといった意見もあった。

退所児童の記述内容を分析した結果、施設生活の改善、職員自身のこと、子どもへの関わり方の3つのカテゴリに分けられた。施設生活の改善では、規則に対してメリハリを指摘する記述（ゆるくするところはゆるく、厳しいところは厳しく）があった。職員自身について一番多かった回答としては、職員自身の姿勢と取り組み（子ども達がしっかりと感

じられる愛情を注いであげて欲しい、大人の見本・手本になって欲しい、子どもたちに夢を与えて欲しい、他人的な付き合いをしないで欲しい）であり、子どもに関わる際の指摘が多かった。次いで、言葉や態度（もう少し意見を聞いてほしい、その日の感情で怒ったりするのはやめて欲しい、笑顔は絶やさないでほしい、私情を持ちこまないでほしい、頭ごなしに言葉を散らしたり、手を腰にあてて構えたりすることはやめて欲しい）などが挙げられていた。また、仕事への継続に関する記述もあった。できるだけ長く続けて欲しい、簡単に辞めないで欲しい、子どもに対して最後まで責任を持って対応して欲しい、責任を持ってやった方がいい、（この仕事が）自分には無理だと思ったら、無理しないで辞めた方がいいと思う、などの気持ちが書かれていた。そして、話を聞いてほしい、きちん

表3 入所児童の職員に望むこと

カテゴリ	望むこと 具体内容	
職員自身 (20)	言葉・態度 (10)	言葉遣いや態度を良くして欲しい(2) 子どもの悪口を子どもに言わないで欲しい(私情も!)。送り迎えがめんどくさいとか、嫌とか言わないで欲しい。口だけでなく行動して欲しい。子どもに注意している事は、職員も守って欲しい(2) 親の前で態度をかえないでほしい。もっと子どもの気持ちを考えて発言、行動して欲しい。口ごたえ、シカト。
	平等な関わり (6)	みんな平等に見て欲しい(2) 差別をなくしてほしい。全員公平に見て欲しいです。児童にたいしての、態度の差をなおせ。先生たちは、小学生とか高校生(一部の人)ばかりにひいきしすぎ。
	話を聞いて 欲しい(4)	話を真剣に聞いて欲しい(2) 相談とは限らないけど、もっと話をしたりしたい。もう少し子どもの意見を聞くこと!
施設生活の 改善(13)	もっと学園での生活を楽しくして欲しい。もっと規則をかえて欲しい。もっともっとみんながちゃんとルールを守れたり…。みんなが楽しいように暮らせる。消灯時間をせめて10時にして欲しい。インターネットつないで欲しい。パソコン、ゲームなどの自分の趣味を規制しないで欲しい。もっと約束などを決める時は、職員だけでなく子どもの意見をもっと取り入れて、子ども達を納得いくようにして欲しい。自由。小遣いアップ。ピアス・髪染めOKなど。はやくバイトをするから携帯を返して欲しいです。防犯カメラを付けて欲しい。	
子どもへの 関わり方(9)	うるさい。うざい。もう少し気を遣えるといいなって思う時がある。もう少し子どもの気持ちを考えて欲しい。もっと子どもからの目線で考えた方がいい。起こし方をなおして欲しい。1人1人の心と、もっと真剣に向き合って欲しい。気前がよくなってくれ。	
その他	今のまままでいい。財布を見つけて欲しい。ほっといてほしい。人の家庭にあまり深く関わって欲しくない。あまり(自分に)関わらないで欲しい。先生のゆっくり休む時間を作って欲しい。仕事と家庭の両立。園長はかわってほしくない。(やさしいから、話を聞いてくれる)。	

とした説明をしてほしい（ルールへの説明、納得できるような関わりの説明）などの指摘がなされていた。子どもへの関わり方については、暴力はやめて欲しい、叱るときはちゃんと叱る褒める時は褒める、負けずにきちんと

と叱ったりして欲しい、子ども達のいいところを見つけて認めて欲しいなどがあった。また、本当の親の事を大切に思う気持ちや生まれてくることができたことへの感謝ができるように育ててあげて欲しいなど、施設で生活

表4 退所児童の職員に望むこと

カテゴリ	望むこと 具体内容	
職員自身 (41)	仕事への姿勢 と取り組み (21)	子ども達がしっかりと感じられる愛情を注いであげて欲しいです(2) 大人の見本・手本になって欲しいです。正しいこと、間違っている事の区別をしっかりとつけて行動してほしい。子どもにひるむことなく関わろうとしてくれる職員が増えたらいいな。とにかく本気で関わって欲しい。子どもに対してちゃんと接すること。もっと児童と向き合いながら、良くコミュニケーションをとってあげれば自然と児童からも好かれる職員になると思う。楽しくやって欲しい。職員は自分自身が決めてこの仕事をしているのだから、生きがいを見つけ、楽しく“生きる姿”を子どもに見せていくべき。児童の長所を生かしつつ、見守って欲しい。子どもたちに夢を与えてください。自分はこの仕事をしたいわけじゃない…というわけをして子どもの前に立たないで欲しい。職員から心を開かないと、子ども達は心を開きません。子どもの気持ちになれ。他人的な付き合いをしないで欲しい。もっとしっかりと日々を見て欲しい。「嘘をついている人」「嘘をついていない人」を見分ける力をつけて欲しい。人としてあかんことはしない。当たり前のことをできて欲しい。ちゃんと独り立ちできるようにしてあげてほしい。
	言葉・態度 (7)	もう少し意見を聞いてほしい。子どもに対して、叱ると怒るについて少し考えて欲しい。怒る(感情をぶつける)場面を良く見る気がします。その日の感情で怒ったりするのはやめて欲しい。頭ごなしに言葉を散らしたり、手を腰にあて構えたり…言っている事には納得できても、その姿勢に“ん?”と思うこともあります。しんどい仕事だとは思いますが、笑顔は絶やささないでほしいです。私情を持ちこまないでほしい。
	仕事への継続 (6)	施設の子らは、職員みんなを「親」とみています。そのことを忘れないで、できるだけ長く続けて欲しいです。簡単に辞めないで欲しい。子どもに対して最後まで責任を持って対応して欲しい。自分を含め家族を第一に考えるなら、職員にならないで欲しい。わずかな期間だけど、児童を預かるのはその子の一生の一部を預かるわけだし、責任を持ってやった方がいいと思う。自分には無理だと思ったら、無理しないで辞めた方がいいと思う。
	話を聞いて ほしい(4)	話を聴いて欲しい(2) 自分からはなかなか相談できない子もいると思うので、そういうのを敏感に察して、相談に乗ってあげて欲しいです。子ども達の事を考えて欲しい。
	説明できる (3)	子どもが納得するまで話をする。(手は出してもいいが)なぜ手を挙げたか説明する。施設にあるルールが一体どういった理由から必要で、守らなければならないのかを明確かつ具体的に説明できるようになって欲しいです。
子どもへの 関わり方(19)	暴力は基本的にはよくない・やめて欲しい(3) 叱るときはちゃんと叱って欲しい(2) 褒める時は褒めてあげて欲しいです(2) アフターケアをして欲しかった(2) 頭ごなしに怒らないで欲しい。子ども達のいいところを見つけて認めて欲しい。甘やかしてはいけない。秘密にするなら、子どもに感づかれないようにして欲しい。知らないフリはして欲しくない(フリをするくらいなら、半端に関わらないで欲しい)。しっかりとしてほしいです。もっと施設の児童への配慮。しかつたりすると、子どもからうざがられたりすると思うけど、負けずにきちんと叱ったりして欲しいです(きつとその子は、いつか「なんで反抗してたんだろ」って思う時が来ると思うから)。社会的な事をもっと教えて欲しい。本当の親の事を大切に思う気持ち、どんな境遇でも生まれてくれたことへのありがたさ(感謝できる)を理解できる子ども達に育ててあげて欲しいです。	
施設生活の 改善(2)	もうちょっとルールや規則をゆるくするところはゆるく、厳しいところは厳しくて、みんなが暮らしやすい施設を作って欲しい。理不尽なルールの押し付けは子どもの成長に良くないです。	
その他	私にとっては十分だった。自分の子どもに同じことをしますか?今のままでいて欲しい。今までのことは本当に勉強になったと思います。またこれからも色々な子どもたちに、反社会的な人にならないよう、いい指導をしていただければ、ありがたいと思います。頑張れ!!	

しながらも親を思う気持ちを持ち続けて欲しいという願いが表れている記述もあった。

その他、私にとっては十分だった、今のままでいて欲しいなどの記述もあった。

2) 良い職員の具体像 自由記述分析の結果 (表 5)

良い職員の具体像については次のような表現がなされていた。入所児童と退所児童の自

由記述で共通した意見としては、「感情（喜怒哀楽）表現がきちんとできる人」であった。入所児童の場合、優しい職員、楽しい職員、真剣に叱ってくれる、の順であり、退所児童の場合、一緒に泣いてくれる、一緒に笑う、楽しい人であった。次に多かった内容が「話を聞く、話をしてくれる人」であった。真剣に話を聞いてくれる、相談に乗ってくれる、いろんなアドバイスをくれるなどの記述があった。

表 5 良い職員の具体像（自由記述）

カテゴリ	入所児童	退所児童
話を聞く 話をしてくれる人 入所児童 (32) 退所児童 (30)	話を真剣に聞いてくれる (12) 忙しくっても相談にのってくれる人 (6) いろんなアドバイスをしてくれる (3) 勉強やサッカーをいつまでも教えてくれる人 (2) 悩み事を聞いてくれる先生。悩んでいる時には話を聞いてくれる。相手の気持ちを考えて、自分の気持ちや悩みなどを相談し合える。自分の悩みを聞いてくれる。へりくつでもしっかりと聞いてくれる人。言い分を聞いてくれる人。子どもの意見も聞いてくれる。悩みを聞いてくれて (真剣に) 考えてくれる人。意見を良い方向にもっていく。いろいろ教えてくれる先生。	話を聞いてくれる (17) 相談に乗ってくれる。(5) 語れる人、自分の思いを話してくれる、話ができる人、いろんな事をしゃべれる、何でも言い合える、率直な意見や話のできる職員。児童の気持ちを聞く、アドバイスをくれる。
喜怒哀楽 感情表現が きちんと できる人 入所児童 (58) 退所児童 (30)	やさしい職員 (25) 楽しい職員 (6) 真剣に叱ってくれる (5) 悪い事をしたら、しっかりと注意ができる人。悪い事は注意してくれる (3) 自分の悪い、ダメなところをちゃんとしてくれる (3) ちょっとしたことでも注意してくれる。おもしろい人 (3) 思いやりのある人 (3) いい時は誉めてくれる (2) 厳しい時は厳しく (2) 悪い事をしたら、しっかりと説教をしてくれる。怒る時は怒る人。ちゃんと叱ってくれたり、自分の弟のように怒ってくれる人。子どもが悪い事をした時に、しっかりと怒ってくれる。ちゃんと頑張っている事を誉めてくれる。すごい事をしたら誉めてくれる人。	一緒に泣いてくれる (4) 一緒に笑う (4) 本気で叱ってくれる (3) 真剣になって怒ってくれる (2) 楽しい人 (2) 明るい人 (2) 熱血な人、素直、冷静、ほめる。一緒に喜ぶ、怒ると叱るをはきちがえない。叱るときは叱り、褒めるときはほめる事。情がある。素直に感情を出す。頭ごなしに怒らない職員。叱るときは叱り、褒めるときはほめる事。厳しさを持っている。温かい人。
親身になる 向き合っ てくれる人 入所児童 (16) 退所児童 (17)	自分の事のように子どものことを考えてくれる (3) 悩みなどを親身になって考え、接してくれる (3) 子どもと真剣に向き合うこと。(3) いつでも子どもの事を第一に考える (2) 真剣に関わってくれる (2) 常に子ども達の事を想ってくれる職員。考えてくれる職員。1人1人の心と向き合う。	真剣に向き合える (11) 子どもの将来を真剣に考える。ちゃんと関わろうとしてくれる。将来のことが一緒に考えられる事。親身になる。真剣にかんがえてくれる。一緒に考えてくれる人。
理解 信頼して くれている 入所児童 (10)	子どもの気持ちをもっと分かる人 (6) 自分の事をちゃんと理解したうえで、行動できる人 (2) 話しやすく、とりあえず分かってくれる先生だと思ふ。うちの事を信頼してくれる。	
家族 親の代わりとして 入所児童 (1) 退所児童 (11)	仕事ではなく、家族として動く。	家族みたいな関係 (3) 家族のように接する (2) 自分の子どものように思う。親心がある人。気持ち的に親になる。親になること。自分の子どものように接する親みたいな存在。

<p>気にかけてくれる声をかけてくれる入所児童 (3)</p>	<p>いつも声をかけてくれる。その人にあつた声かけをしてくれる人。子どものことをしっかりみていて、気にかけてくれる人。</p>	
<p>平等・公平性がある平等に関わる入所児童 (11) 退所児童 (7)</p>	<p>みんな公平に接してくれる (4) 差別をしない人 (3) みんな平等に接してくれる (2) 平等で尊敬できる職員。人と比べない人。</p>	<p>公平に関わる (3) 平等にかかわる (2) 公平・平等な人、差別・区別しないこと。</p>
<p>明確な意思を持っている人入所児童 (2) 退所児童 (9)</p>	<p>自分がそれなりの行動を示し、説得力のある人。物事を深く考えていて、それを児童に示せる人。</p>	<p>良し悪しがはっきりしている (2) 事実を曲げない人。プライベートと仕事の区別を分ける。仕事であると割り切れる人。ダメな事ははっきり言ってくれる。子どものために他職員に拒否や意見ができる。メリハリのある職員。気分やではない人。</p>
<p>特にない・わからない入所児童 (12)</p>	<p>特にない (5) わからない (4) 職員じゃないのでわかりません。思いつかない。考えたことがない。</p>	
<p>その他の具体像</p>	<p>施設で働いている全ての職員。児童養護施設に就職するだけで、十分自分たちと向き合ってくれてると思う。全てがよい職員なのに、この質問はおかしいと思う。職員にめっちゃ失礼だよ!!すぐに怒らない人。すぐどっかいかない人。すぐ「勉強やれ、勉強やれっ」で言わない人。車での送り迎えをしてくれる。共感できる職員。かっこよくて (かわいくて) 頭がいい人。スポーツができる。子どもの意見を大切にできる人。小さいうちは甘える事ができる職員。子どもとの時間をたくさん作ること。自分の悪い所に向き合え、改善できていける人。仕事をちゃんとやる人。人を傷つけないこと。相談事等を口外しない。ビデオをちゃんととってくれるところ。みんなの全力で守ろうとしてくれる人。子どもが悩みをすぐに打ち明けられて、解決してくれる職員。フレンドリーな職員。言いたいことを全て言える (言い合える関係)。仲間を思いやって行動できて、心が広い人。</p>	<p>柔軟性がある。謝れる人。器がでかい。子どもだって終わりにしない。仕事好き。自己犠牲ができる。新しい体験をさせてくれる人。約束を守る。夢を与えてくれる。子どもの長所を引き出す。解決方法を教えてくれる。子どもの行動に鋭い人。スポーツができる。自信を持っている。仕事に誇りを持っている。成長を描ける職員。親の事を教えてくれる。安心感を与えてくれる。自ら挨拶ができる。暴力を振るわない。施設をでて行けとは言わない。自分の施設が好きの人。</p>

そして「親身になる、向き合ってくれる人」という記述もあった。子どもに真剣に向き合える、自分の事のように子どもの事を考えてくれる、悩みなどを親身になって考え接してくれる等の記述がみられた。そして「平等、公平性がある、平等に関われる人」という記述もあった。

入所児童に特徴的な意見は、「理解、信頼してくれている人」「気にかけてくれる、声をかけてくれる人」であった。子どもの気持ちをもっとわかる人、自分の事を理解したうえで行動できる人、いつも声をかけてくれる人、子どものことをしっかりみて、気にかけ

てくれる人という記述であった。なお、特にない、わからない、思いつかないなどの意見もあった。

退所児童で特徴的な意見は「明確な意思を持っている人」であった。良し悪しがはっきりしている人、事実を曲げない人、ダメな事ははっきり言ってくれる人、などの記述であった。そして、家族みたいな関係・家族のように接する人、自分の子どものように思ってくれる人、親心がある人という記述もあった。

その他の中では、夢を与えてくれる人、柔軟性がある人、謝れる人、仕事に誇りを持ち仕事好きな人、約束を守る人、安心感を与え

てくれる人、子どもだって終わりにしない人、自己犠牲ができる人、新しい体験をさせてくれる人、自信を持っている人、成長を描ける職員、自分がそれなりの行動を示し説得力のある人、自ら挨拶ができる人、自分の施設が好きな人、スポーツができる人、相談事等を口外しない人、ビデオをちゃんととってくれる人、言いたいことを全て言える人（言い合える関係）、仕事ではなく家族として動く人、など大人の姿勢や振る舞いなどの具体的な意見があった。

5. 考察

1) 子どもが職員に望むこと

入所児童と退所児童の共通する意見として、職員自身の言葉や態度を改善して欲しいという記述が多かった。職員からすると精一杯関わっているつもりでも、子どもからすれば理不尽に感じる事があったり、納得して聞くことができていなかったりしている場合には、職員の態度や言葉に対して不満を感じるのではないかと考える。子どもたちにとって、感情をぶつけるような態度や言葉、頭ごなしに言葉を散らしたり（あびせたり）、手を腰にあてて構えているような態度は職員への不満を感じさせる具体的な指摘である。反対に、話を聞いてほしかったり、納得できるような説明を求めていたり、話し合いの中で一緒に決めていきたいと思っている子どもの思いは、生活を共にしていく職員にとって非常に重要な意見であると言えよう。

入所児童の場合、現在の施設生活で感じていることが回答に影響しているため、退所児童よりも施設に改善を望む意見が多かった。例えばルールについて、施設生活がより良いものになるためのルール作りは必要であるが、ルールや決まりを守らなければいけない理由を、子ども達が納得しているかどうかを確認

することは重要である。ルール作りに対して子どもの意見も取り入れたり、決まったルールを単に押し付けてしまうのではなく、個々の理解度に合わせて、子どもが納得するまで説明できるような職員が求められている。

職員に対しては、平等で公平な関わりを求めている記述が多かった。助言や注意の仕方が偏っていたり、職員自身の気持ちのムラが子どもの関わりに出てしまったり、そういった不公平感を子どもが感じてしまう状況に陥っているようである。ただし、職員が多くの子どもの全てに平等に関わることは現実的には難しい。まずは『小学生とか高校生（一部の人）ばかりにひいきしすぎ』と感じてしまっている子どもの気持ちについて、職員はどう理解していけばよいのだろうか。日々の生活の中で不平等に感じてしまう状況に耳を傾けたり、子どもの心の声を真摯に受け止める職員の姿勢が大切だと言える。そして、なぜこのように関わっているかという職員側の意図を子どもに具体的に伝えていく努力が必要であろう。ここでも、子どもがどうすれば納得できるのか、ということを考えながら関わる事が求められる。

退所児童に関しては、仕事への姿勢と取り組みに関する記述が多かった。『子ども達がりっかりと感じられる愛情を注いであげて欲しい』『子どもにひるむことなく関わろうとしてくれる職員が増えたらいい』『とにかく本気で関わって欲しい』など、子どもに向き合う際の大人の姿勢を指摘する記述がみられた。日常生活をしっかりと見ると、子どもの気持ちになって一生懸命関わる姿を子ども達が理解できるような取り組みが必要なのである。そこでは、威圧的で指示的な態度ではなく、楽しく生活ができるように配慮したり、“生きる姿”を示したり、子どもたちに夢を与えられるような取り組みをしたりと、一緒

に生活しているからこそ見せられる姿を示していくことが大切なのではないだろうか。

また、『大人の見本・手本になって欲しい』や『正しいこと、間違っている事の区別をしっかりとつけて行動して欲しい』『人としてあかんことはしない、当たり前のことをできて欲しい』などは、社会常識が備わっている大人の関わりを求めている指摘と言えよう。

退所して社会に出てから様々な経験をしている彼らにとって、施設で生活していた時の職員の関わりと現在の大人との関係や、自分の生活を振り返った時に感じた意見が多く述べられていた。施設生活への改善をして欲しいと感じている退所児童は少なかったことからすると、生活への改善を要求するまで生活のルールや規則に不満を退所した後も強く感じている子どもは少ないと考えられる。反対に、職員自身へ望むことの記述内容が入所児童よりもはるかに多いということは、日常生活で感じる細かな不満を解消して欲しいというよりも、退所して様々な人間関係や社会経験を積んだからこそ感じられる“あるべき大人像”や、“職員に対する様々な期待”が『職員に望むこと』となって表れていると言えよう。

また職員の仕事継続に関する記述も入所児童の自由記述にはなかった回答であった。「施設の子らは、職員みんなを『親』とみています」という回答からは、職員の存在は親同然と感じている子どもがいることが分かる。さらに『簡単に辞めないで欲しい、子どもに対して最後まで責任を持って対応して欲しい』など責任を持った関わりを求めたり、辞めないで欲しいといった子どもの思いからは、親のような存在の職員との継続した関係を望んでいるのではないだろうか。一方、『自分を含め家族を第一に考えるなら、職員にならないで欲しい。自分には無理だと思っ

たら、無理しないで辞めた方がいいと思う』という記述に関しては、施設で生活する際に体験した親との別れ、職員との信頼関係が退職や転勤によって失っていく、そういった喪失体験を繰り返している子ども達だからこそ、自分を含め家族を第一に考えるなら、職員にならないで欲しい、自分には無理だと思ったら、無理しないで辞めた方がいいと思う、という指摘になっているのではないだろうか。子ども達に安心で安定した生活環境を提供するためにも、こころの拠り所となるような環境を整えるためにも、職員が責任を持って、長く働き続けられるようにしていくことは大きな課題である。

2) 子どもからみた『良い職員』

子どもの目から見た『良い職員』とは、一言で言えば、『自分に目を向けてくれている(た)かどうか』が子どもにきちんと伝わっている(た)」ことであった。

例えば誉められた場合や、職員が自分の望むことを察してすぐに関わりしてくれた場合、職員から優しくされたり、受け入れられたりした場合などにそう感じるようである。一方、すぐに怒ったり、人と比べるようなことを言ったり、平等な関わりを感じられなかったり、受け入れがたい事を言われた場合は、その瞬間その職員に対しては、子どもは『良い職員』と思わない傾向にある。

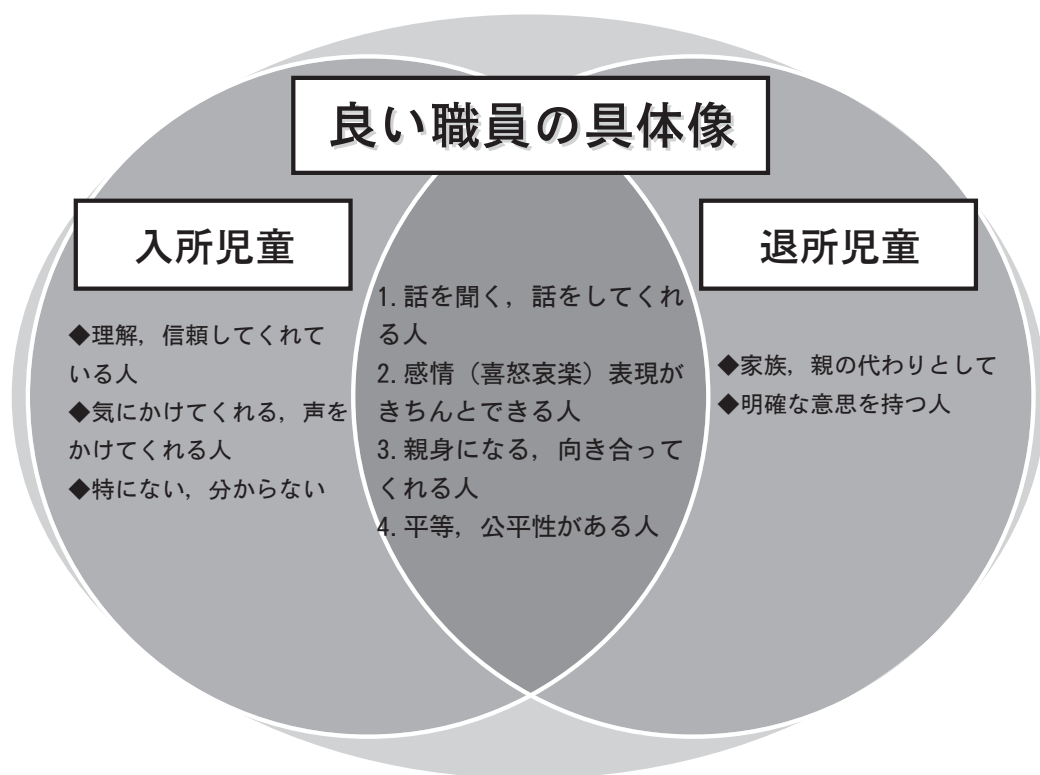
職員からすると、子どもの為を思って一生懸命伝えていると思っても、うまく伝わってなければ意味のないことになってしまう。そのため、職員自身が感情のコントロールを行い、子どもとの関係づくりに取り組んでいくことが大切である。職員自身の気分によって関わり方を変えたりすることはせず、どの子どもに対しても平等に接しながらも、褒めたり叱ったり、その子どもに対し

て、関わる意図が明確に伝わるような言葉がけや雰囲気を作り出すことが大切である。

入所児童で注目すべきは、「わからない・特にない」の回答（10%）である。「わからない」という言葉は、退所児童への調査結果では少数であった。自分のために思っていて関わってくれた職員（大人）が良い職員であるのか、実感として湧いてくるのはいつなのであろうか。施設で生活している今、子どもがして欲しい事をいつもしてくれる職員は、都合の良い職員だともいえる。職員が本当に自分の事を考えて関わってくれたと感じるのは、もしかしたら施設を退所してからなのかもしれない。施設職員だけではなく多くの大

人、外の社会と接することによって、良い職員像が明らかになってくるのかもしれない。そうであるなら、今、児童養護施設に入所中の子どもにとっては、良い職員像は実は「わからない」というのが素直な気持ちなのかもしれない。

退所児童で注目すべきは「家族・親の代わり」のように接してくれる職員の存在である。自分の子どものように接して欲しい、家族のように接しながら、家族みたいな関係を築きたい、といった願いは、子ども達が家庭で生活できなかつた思いが如実にあらわれているように思う。家族とは離れて生活している子ども達にとって「親・家族のような存

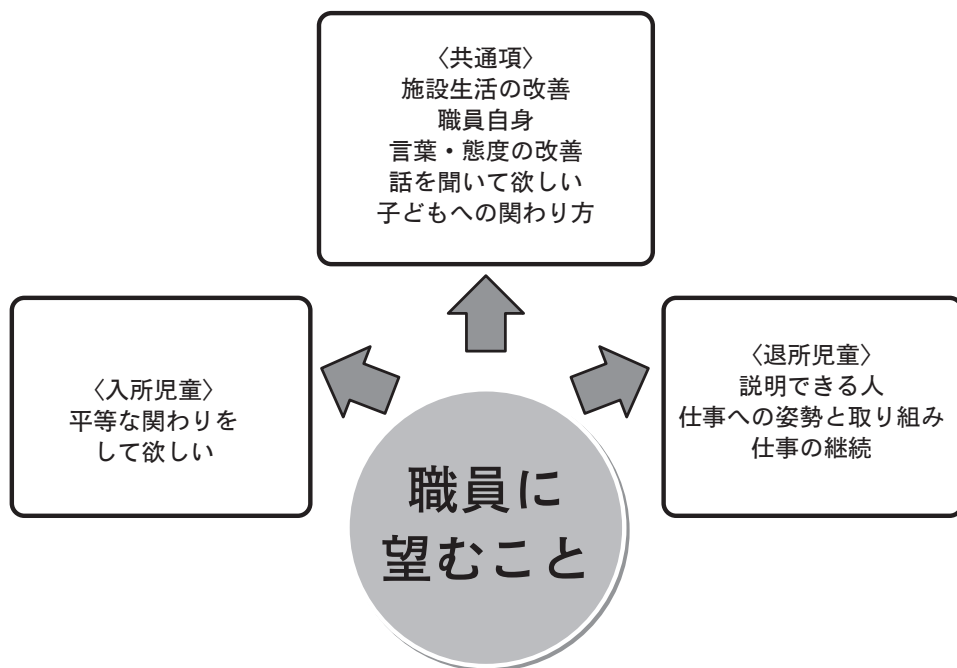


良い職員の具体像（関係図）

在』とはどのようなものなのだろうか。記述にあった『安心感や温かさ、そばにいてくれる存在』など“絶対的な居場所”として確立されているイメージがそこにはあると言えよう。そしてそれは、月日が経っても消えることのない『普遍的な存在』ではないだろうか。家族のような関係を求めている子ども達は、その変わらない安心感や居場所としての家族を既に失っている。そのような経験を二度と繰り返させないことが、今、施設に強く求められていると考えられる。

職員の思いや意図がうまく子どもに伝わっていれば、入所児童であっても、退所児童であってもその時は気付かなかったとしても、後になって『あの時は自分の事を思ってくれてくれたのかも知れない』と気付くこともあるようだ。また、真剣に話を聞いてくれ

たり、悩みを相談できたりと、いつもそばで自分の事を考えていてくれる大人の存在を求めているような記述もあった。それだけでなく、きちんと叱って、自分の悪いダメなところを言ってくれたり、厳しい時は厳しく接してくれたり、真剣に子どもに向き合い、困った時はアドバイスをくれる職員を求めている者もいた。このような記述からは、子どもが職員との関係の中で、認めて欲しいとか優しくして欲しいとか、関わって欲しいと感じながらも、叱って欲しかったり、厳しく導いて欲しかったりと相反する感情が複雑に絡み合っていることが分かる。良いことを認めて欲しい気持ちは当然ではあるが、叱って欲しいや厳しくして欲しいといった言葉からも、言う時には言うという姿勢が大切であることが分かる。どのような場面においても、



入所児童・退所児童の職員に望むこと（関係図）

良い所は褒め、悪い所は叱るといったメリハリや、関わりに対する一貫性、公平性など子どもに分かりやすく、具体的に伝えていくことが必要である。またその時の職員の気分や感情で叱るのではなく、子どもになぜ叱っているのか、どうしなければいけないのかが、理解できるように伝わらなければならない。それがなければ、子どもは職員が『自分の為に』叱っているなどとは考えない。

また、職員の仕事への取り組み方やその人のパーソナリティをよく観察している記述もあり、日常生活の細かい要望や“夢や希望を与えてくれる”など、その子どもの人生に大きく関わってもらいたいと感じている内容もあった。

今回の調査からは『良い職員』の具体的な姿を子どもなりにあらわす言葉が多く記述された。職員の仕事に向かう姿勢や大人（人間）として当たり前の常識が身についているかどうかなど、子ども達は施設の生活の中で、大人の姿をよくみている。そのような子ども達の目を常に意識しながら、発する言葉の一つひとつを大切にし、言動に責任をもって関わっていく事が施設職員には求められている。

<参考・引用文献>

- 伊藤嘉余子（2007）「施設養護におけるレジデンシャルワークの再考－児童養護施設実践に焦点をあてて－」『埼玉大学教育学部紀要56（1）』 p83-p94
- 伊藤嘉余子（2010）「児童養護施設入所児童が語る施設生活－インタビュー調査からの分析－」『日本社会福祉学会vol.50-4』 p83-p85
- 鎌田道彦・駒米勝利（2008）「児童養護施設職員へのインタビュー調査からみた集団処遇に関する悩みについて」『仁愛大学研究紀要第7号』
- 岐阜県児童福祉協議会（2007）「中学・高校生へのアンケート結果から考える」『児童福祉ぎふ第43号』 p74-p112
- 岐阜県児童福祉協議会（2006）『岐阜県児童福祉施設子どものアンケート集計』
- 子どもが語る施設の暮らし編集委員会（2005）『子どもが語る施設の暮らし』明石書店
- 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局（2002）『子どもの権利を擁護するために』日本児童福祉協会
- 厚生労働省（2011）『第11回社会保障審議会社会的養護専門委員会資料』 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000018h6g.html>
- 厚生労働省（2010）『平成21年度における被措置児童等虐待届出等制度の実施状況資料4』第10回児童部会社会的養護専門委員会議事録 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000ybr9-att/2r9852000000ybzv.pdf>
- 児童養護研究会（1995）『養護施設と子どもたち』朱鷺書房
- 全国社会福祉協議会（2009）『子どもの育みの本質と実践』調査研究報告書
- 全国児童養護施設協議会（2009）『この子を受け止めて育むために』児童養護施設における養育のあり方に関する特別委員会報告書p35
- 高橋千枝 内藤直人 田丸敏高ら（2009）「児童養護施設入所児の職員観と生活意識」『地域学論集 鳥取大学地域学部紀要 第6巻 第2号』 p159
- 高橋久雄（2004）「施設養護の専門性に関する考察－児童養護施設事例検討スーパービジョンから見る養護担当職員に求められる専門性－」『昭和女子大人間社会学部紀要761』 p58-p66
- 谷口純世（2008）「児童養護施設における日常生活支援－児童養護施設における援助者の専門性－」『医療福祉研究 第4号』 p81-p97
- 東京都社会福祉協議会（2008）「働き続けることのできる職場環境調査に関しての考察」『平成20年度紀要』東京都社会福祉協議会児童部会調査研究部p69-p76
- 東京都社会福祉協議会（2004）『児童部紀要－平成14年度版－』東京都社会福祉協議会児童部会調査研究部
- 植原真也 藤澤陽子（2009）「児童養護施設の子どもの施設入所をどのように捉えているか－入所時のアセスメント面接と生活場面の

- 記録の分析を通して-」『臨床心理学vol.9-No.2』金剛出版p230-p240
- 永井亮（2007）「人権回復の場としての児童養護施設の課題：施設を子どもたちの人権回復の場として定着させるために」『ルーテル学院研究紀要No41』
- 長谷川真人 堀場純矢（2006）『児童養護施設と子どもの生活問題』三学出版p75-p87
- 長谷川真人（2001）「当事者の語りに寄り添い学ぶ-児童養護施設出身者が語る過去・現在・未来」『子どもの虐待とネグレクト』3（1）
- 福祉労働研究会（2005）「児童養護施設における生活支援-職員の業務分析から-」『福祉労働の専門性と現実-児童・障害・高齢施設における業務実態調査第一次報告書-』総合社会福祉研究所